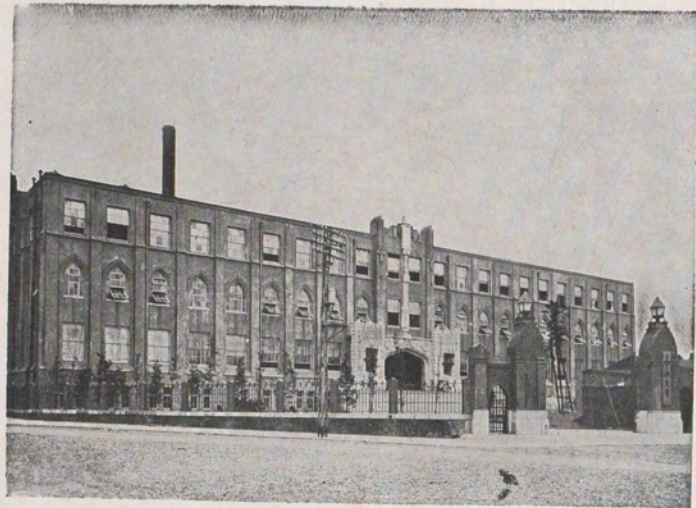


中央大學學則

中央大學學則 1930(昭和5)年1月



面正舍校學大央中



部一ノ庭校

中央大學

目次

專門部	大學豫科	學部
.....
三三	三三	一一
三三	三三	三三

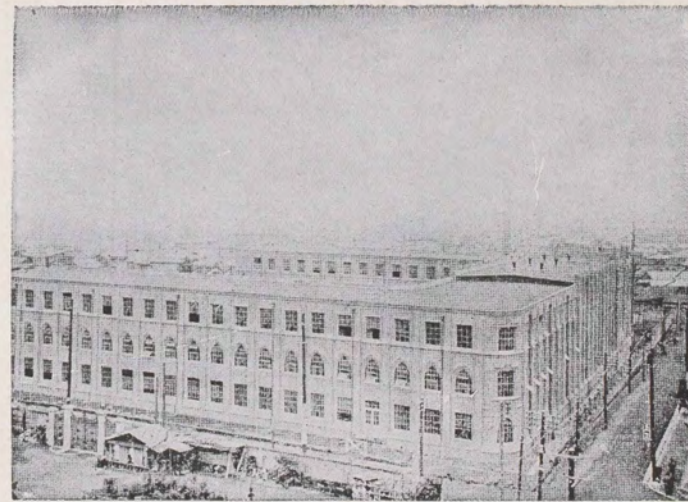
中央大學學則

第一章 總則

- 第一條 本大學ハ法律、政治、經濟、商業ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授シ并其蘊奧ヲ攻究スル所トス
- 第二條 本大學ニ法學、經濟學、商學ノ三學部及ヒ大學院ヲ設ケ大學豫科ヲ附置ス
- 第三條 學部ニ於テハ法律、政治、經濟、商業ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授ス
- 大學院ニ於テハ學部ニ於テ教授スル學術ノ蘊奧ヲ攻究セシム
- 大學豫科ニ於テハ各學部ニ入ルニ必要ナル高等ノ普通學科ヲ教授ス
- 學部ハ晝間夜間ノ二部教授トシテ大學豫科第一豫科ノ授業ヲ晝間トシ第二豫科ヲ夜間トス
- 第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第五條 本大學ノ休業日ハ左ノ如シ
- 自四月一日 至同月十五日
 - 自七月十六日 至九月十日
 - 自十二月二十六日 至翌年一月七日
- 日曜日、大祭祝日及ヒ本學記念日(十一月十一日)



運動場



校舍全景

○選擇科目ハ學年ノ始第一學年ニ在テハ二科目、第二學年ニ在テハ二科目若クハ三科目、第三學年ニ在テハ二科目ヲ選定シ學長ノ承認ヲ經ヘシ

第三 商學部

必修科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	科目	每週授業時數	科目	每週授業時數	科目	每週授業時數	科目	每週授業時數	
簿記(銀行)	二		商工經營論	三	交通論(海鐵運)	四			
商學	二	商業地理	二	保險論(生命)	三				
經濟原論	四	銀行論	二	財政學	二				
民法	六	民法	五	會計學	二				
工業通論	二	法 <small>(總則、商行爲、會社)</small>	二	商法 <small>(手形)</small>	二				
取引所 <small>(實買、實賣)</small>	二	簿記(工業)	二	商業事情	四				
貨幣論 <small>(信用、用)</small>	二	商業政策	二	商業實務	二				

○選擇科目ハ學年ノ始第一學年ニ在テハ一科目若クハ二科目、第二學年ニ在テハ同上、第三學年

隨意科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	科目	每週授業時數	科目	每週授業時數	科目	每週授業時數	科目	每週授業時數	
商業實務	二	工業政策	二	社會政策	二				
商業英語	二	商業實務	二	演習	二				
選擇科目		商業英語	二	同上	二				
商業史	二	倉庫關稅	二	植民政策	二				
統計學	二	農業政策	二	國際私法	二				
憲法	三	行政法	四	破產法	二				
刑法總論	二	刑法各論	二						
		國際公法	四						
第二外國語 <small>(佛、獨、露、支、那ノ内一)</small>	三	同上	三	同上	三				

ニ在テハ二科目ヲ選定シ學長ノ承認ヲ經ヘシ

第二節 入學、休學及ヒ退學

- 第十一條 本大學ニ入學ヲ許スハ本大學豫科ヲ卒業シタル者及ヒ左ノ各號ノ一ニ該當スル者トス
- 一 高等學校高等科卒業者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等ノ學力アリト認メタル者
 - 二 本學舊大學部卒業者及ヒ本學專門部卒業者但大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル
 - 三 本大學ト同等學校ノ大學豫科卒業者及ヒ專門學校卒業者但大正七年文部省令第三號第二條第四項ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル
- 第十二條 本大學ト同等學校ノ第二學年以上ニ在學シタル者ニシテ轉學ヲ願出ツルトキハ相當ノ學年ニ編入ス但本大學ノ學科課程中他校ニ於テ修了セサルモノアルトキハ其科目ニ限り試験ヲ行フヘシ
- 第十三條 入學志願者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘテ本大學ニ差出スヘシ但試験ヲ要スル者ハ申込ト同時ニ受験料金五圓ヲ納ムヘシ
- 第十四條 本大學ノ入學期ハ每學年ノ始一回トス但第十二條ニ依リ他ノ同等學校ヨリ轉學スル者

ハ此限ニ在ラス

- 第十五條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ但在學證用紙ハ本大學ヨリ申受クヘシ
- 第十六條 保證人ハ東京市内ニ一家計ヲ立ツル成年者タルコトヲ要ス
- 保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事件ニ付其責ニ任スヘキモノトス
- 第十七條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滞ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ
- 第十八條 學生疾病其他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二个月以上修學シ能ハサルトキハ其事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上學長ニ願出テ其許可ヲ經テ當該學年間休學スルコトヲ得
- 第十九條 休學シタル學生ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ入テ修學スルモノトス但休學年間ト雖モ事故止ミタルトキハ其旨ヲ届出テ出席スルコトヲ得此場合ニ於テモ當該學年ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第二十條 學生休學中ハ授業料ヲ免除ス
- 給費又ハ貸費ヲ受クル者ハ休學ノ月ヨリ之ヲ罷ム
- 第二十一條 學生ニシテ陸軍現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其間第十八條ノ規定ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十二條 疾病其他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出テ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

- 一 學業劣等若クハ疾病ニ因リ成業ノ見込ナキ者
- 二 出席常ナラサル者
- 三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一年間出席シ又ハ正當ノ理由ナク一ヶ月以上出席シタル者

第二十四條 第八章ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四ヶ月以上ヲ經過シ改善ノ實アリト認めタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

第三節 試驗

第二十五條 試驗ハ每學年ノ終ニ舉行シ毎年九月追試驗及ヒ再試驗ヲ舉行ス

但追試驗及ヒ再試驗ヲ受クル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第二十六條 試驗ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十七條 試驗ハ各科目ニ付合格不合格ヲ決ス

試驗ノ成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第二十八條 第一學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第二學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス、第二學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第三學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス第一學年配當科目中試験未済又ハ不合格ノ科目アルトキハ此科目ヲモ通算スルモノトス

但科目ト稱スルハ第十條ノ學科課程表ニ依ル

第二十九條 試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ルマテ在學スルコトヲ得但六ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス試験ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

第四節 學費

第三十條 學部ニ入學スル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第三十一條 授業料ハ一學年金百十圓トス左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月(四十圓) 第二期 九月(金四十圓) 第三期 一月(金三十圓)

第三十二條 學年ノ中途ニ入學シ若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及ヒ退學以後ノ授業料ヲ免除ス

第三十三條 學生在學中ハ出席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十四條 既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルモ之ヲ返付セス
第三十五條 授業料ヲ滞納スル者ハ完納ノ上ニ非サレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三章 大学院

第三十六條 大学院ノ入學期ハ每學年ノ始トス但時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
第三十七條 本大學ノ卒業者ニシテ大学院ニ入ラント欲スル者ハ特ニ研究セントスル事項ヲ具シ
學長ニ願出テ其許可ヲ受クヘシ
本大學ノ卒業者ニ非スシテ大学院ニ入ラント欲スル者ハ前項ノ入學願書ニ學業履歷書ヲ添附シ
テ差出シ當該學部ノ檢定ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ檢定料トシテ金十圓ヲ納ム
ヘシ
第三十八條 大学院學生ノ在學ハ其年限ヲ定メス二年以上在學スル者ハ研究シタル事項ニ付卒業
論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ總テ學位規程ニ依ル
第三十九條 大学院學生ハ各研究室ニ於テ學長ノ指定スル指導教員ノ指導ヲ受ケ研究ニ従事スル
モノトス
第四十條 大学院學生ノ爲メ特ニ講義ヲ開キ特別實習ヲ爲サシムルコトアルヘシ
大学院學生ハ學長ノ許可ヲ受ケ各學部ノ講義實習等ニ出席スルコトヲ得

第四十一條 大学院學生ハ每學年ノ終ニ於テ其研究ノ狀況及ヒ成績ヲ記載シタル報告書ヲ指導教
員ヲ經テ學長ニ差出スヘシ
第四十二條 大学院學生ハ研究料トシテ一學年金六十六圓ヲ納ムヘシ
第四十三條 第十五條乃至第二十四條ハ之ヲ大学院學生ニ準用ス

第四章 大學豫科

第一節 學科課程

第四十四條 豫科ヲ分チテ第一豫科及ヒ第二豫科トス修學期間ハ第一豫科ハ三學年第二豫科ハ二
學年トス
第四十五條 大學豫科授業科目、其配當及ヒ每週授業時數左ノ如シ

第一豫科 第一部 (法科、經濟科)

科	第一學年	第二學年	第三學年
目	業時數	業時數	業時數
科	目	科	目
	業時數		業時數

第二部(商科)

倫理	國語、漢文	外國語(英若クハ獨)	歷史及地理	數學	體操	第二外國語(英、獨、國語ノ内)
一	五	一〇	四	四	二	二
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
一	五	一〇	四	二	二	二
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
一	五	八	二	二	二	二

倫理	國語、漢文	外國語(英)	歷史及地理	數學	體操	第二外國語(獨逸語)
一	五	一〇	四	四	二	二
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
一	五	一〇	四	二	二	二
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
一	五	八	二	二	二	二

商 業 通 論	自 然 科 學	數 學	歷 史	外 國 語 (英)	國 語 、 漢 文	倫 理	科 目	第 一 學 年	業 每 時 週 數 授
							二	二	
經 濟 通 論	同	法 學	哲 學	同	同	同	科 目	第 二 學 年	業 每 時 週 數 授
							二	二	

第二部 (商科)

第 二 外 國 語 (英獨ノ内)	二	同	體 操	簿 記	二	二	二
---------------------------------	---	---	--------	--------	---	---	---

體 心 自 然 科 學	數 學	歷 史	外 國 語 (英若クハ獨)	國 語 、 漢 文	倫 理	科 目	第 一 學 年	業 每 時 週 數 授
						二	二	
經 濟 通 論	同	哲 學	法 學	同	同	科 目	第 二 學 年	業 每 時 週 數 授
						二	二	

第二豫科
第一部 (法科、經濟科)

心	理	學	簿	記
體	操	二	同	上
第二外國語(獨逸語)	二	同	上	二

第二節 入學、休學及ヒ退學

第四十六條 大學豫科ニ入學ヲ許スハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者トス但外國人ニシテ之ニ相當スル學歷ヲ有スル者ハ中學校四學年終了程度ノ試験檢定ノ上之ヲ許可ス

第一豫科

(一)中學校四學年修了者(二)高等學校尋常科修了者(三)高等學校高等科入學資格試驗合格者(四)專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者(五)文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ檢定シタル者(六)文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第二豫科

(一)中學校卒業者(二)專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者(三)文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
第四十七條 左ノ各號ノ一ニ該當シ前級各科目ノ試験ニ合格タル者ハ第一豫科第二學年ニ入學ヲ許ス

(一)中學校卒業者(二)高等學校高等科一學年修了者(三)專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者(四)文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
第四十八條 大學豫科ノ入學期ハ每學年ノ始一回トス但補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
第四十九條 第十五條乃至第二十四條ハ大學豫科學生ニ之ヲ準用ス

第三節 試驗

第五十條 各科目ノ試験成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス
第五十一條 不合格ノ科目總科目ノ三分ノ一ニ達セサルトキハ教員會ノ銓衡ニ依リテ假ニ進級セシムルコトヲ得此場合ニハ不合格ノ科目ニ付キ再試験ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス
再試験ハ每年九月之ヲ舉行ス但再試験ヲ受クル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ
第五十二條 引續キ二回進級セサル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ
第五十三條 試験ハ每學年ノ終ニ舉行ス但學年試験以外ニ於テ臨時試験ヲ行フコトアルヘシ

第四節 學費

第五十四條 大學豫科ニ入學スル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第五十五條 授業料ハ一學年金百圓トス左ノ三期ニ納ムシ

第一期 四月(金三十五圓) 第二期 九月(金三十五圓) 第三期 一月(金三十圓)

第五十六條 第三十二條乃至第三十五條ハ大學豫科學生ニ之ヲ準用ス

第五章 給費生及ヒ特待生

第五十七條 學生中學術優等品行方正ナル者ヲ選ヒ銓衡ニ依リ給費生又ハ特待生トス

第五十八條 給費生ハ當該學年間年額金三百圓以内ノ學資ヲ給與シ特待生ハ當該學年間授業料ヲ

免除ス

第五十九條 給費生又ハ特待生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ其待遇ヲ解ク

第六章 貸費生及ヒ留學生

第六十條 貸費ハ本大學貸費並寄附貸費ノ二種トス

第六十一條 學生中學資支辨ノ途ナキ者ハ銓衡ニ依リ貸費生トシテ當該學年間年額金三百圓以内ヲ貸與ス

第六十二條 寄附貸費ハ寄附者ノ指定ニ從ヒ前條ノ貸費年額以内ヲ貸與スルモノトス但特ニ貸費ヲ限定セラレタルモノハ其額ヲ貸與ス

第六十三條 貸費ヲ受ケントスル者ハ其事情ヲ具シタル願書ヲ學長ニ宛テ差出スヘシ

第六十四條 貸費ノ許可ヲ得タル學生ハ本大學ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ

第六十五條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業後一个年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額ツ、ヲ月賦返納スヘシ

第六十六條 貸費生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ貸費ヲ罷ム

第六十七條 貸費生ニシテ貸費ノ停止又ハ退學ヲ命セラレ若クハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ又

ハ退學スルトキハ貸與ヲ受ケタル金額ヲ即時ニ返納スヘシ但疾病ノ爲メ廢學シタル者ハ情狀ニ依リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第六十八條 本大學卒業者ニシテ學術優等、品行方正ニシテ將來學術ノ攻究ニ從事セント欲スル者ニハ特ニ學費ヲ貸與シテ海外ニ留學セシムルコトアルヘシ

留學生ニ關スル事項ハ派遣ノ都度之ル定ム

第七章 學生心得

第六十九條 出校スルトキハ必ス制服制帽洋服若クハ袴ヲ着ケ靴又ハ上草履ヲ用ウヘシ

第七十條 出校スルトキハ必ス聽講券ヲ携帯スベシ若シ之ヲ携帯セサル者ハ退場ヲ命ス

第七十一條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其他粗暴ノ舉動アルヘカラス

第七十二條 授業中ハ退席ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ授業者ノ許可ヲ受クヘシ

第七十三條 學生又ハ保證人氏名ヲ改稱シ若クハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

第七十四條 三日以上闕府セントスルトキハ必ス其事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 闕席届出ノ日數ハ一个月ヲ超ユルヲ得ス若シ一个月ヲ經過シ其理由尙ホ止マサルトキハ其都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八章 懲 罰

第七十六條 學生學則又ハ校規ニ背反シ其他不都合ノ行爲アルトキハ情狀ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シ尙ホ器具等ヲ損壞シタル者ニハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

第七十七條 學業怠惰ニシテ成業ノ見込ナキ者又ハ品行不良改悛ノ目途ナキ者ハ退學ヲ命ス第七十八條 前二條ノ規定ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シタルトキハ其旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知シ且ツ其退學處分ハ同種學校ニモ之ヲ通知スヘシ

中央大學專門部學則

第一章 總 則

第一條 本大學ニ專門部ヲ置キ法律、政治、經濟、商業ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授ス

第二條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條 本大學ノ休業日ハ左ノ如シ

自四月一日 至同月十五日

自七月十六日 至九月十日

自十二月二十六日 至翌年一月七日

日曜日、大祭祝日及ヒ本學記念日(十一月十一日)

第四條 各學科ヲ卒業シタル者ニハ其卒業證書ヲ授與ス

第二章 專門部

第一節 學科課程

第五條 本大學專門部ヲ左ノ三科ニ分ツ

一、法學科
二、經濟學科
三、商學科

第六條 各學科ノ修學期間ヲ三學年トス
第七條 各學科ノ修業科目及ヒ其配當左ノ如シ

第一 法學科

科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
法學通論	法學通論	法學通論		
憲法	憲法	憲法		
行政法	行政法	行政法		
民法	債權總論、親物族權	物權、債權各論	相續	
商法		總行爲則、會社	手形、海商、保險	
刑法	總則	各論		
訴訟法		刑事訴訟法(第一編) 民事訴訟法(第二編、 至第八編)		

別科生ハ英語若クハ獨逸語、論理、心理、哲學概論ヲ隨意科トス

破產法	破產法			
經濟學	經濟原論			
財政學			財政學	
國際公法		國際公法		
國際私法			國際私法	
實習		刑民事實實習		
倫理	倫理	倫理		
哲學概論			哲學概論	
社會學	社會學			
論理、心理	論理、心理			
外國語	英語若クハ獨逸語	英語若クハ獨逸語		
隨意科目	羅馬法	刑事政治史	法理學	

第一 經濟學科

科目	學年
經濟學	第一學年 貨幣原論
財政學	第二學年 信用及銀行政策、交通政策
政治學	第三學年 商戰政策、社會及工業政策、植民政策、保險
統計學	第一學年 統計學原論
簿記及會計學	第二學年 人口及經濟統計學
經濟史	第一學年 經濟史及經濟學史
經濟地理	第一學年 經濟地理
民法	第一學年 債權總論、親物、物權、債權各論
商法	第一學年 總行爲、會社、手形、海商
憲法及行政法	第一學年 憲法
國際公法	第一學年 國際公法

國際私法	第一學年 倫理
倫理	第一學年 倫理
哲學概論	第一學年 倫理
社會學	第一學年 社會學
論理、心理	第一學年 論理、心理
外國語	第一學年 英語若クハ獨逸語
隨意科目	第一學年 刑法總則、外刑、國法爲各管論、取引所論

別科生ハ英語若クハ獨逸語、論理、心理、哲學概論ヲ隨意科目トス

第二 商學科

科目	學年
簿記及會計學	第一學年 商業簿記
商業事務	第一學年 商業算術及珠算論
商工經營論	第二學年 銀行簿記
內外商業事情	第三學年 會計簿記及實踐

歴ニ依リ特ニ國語、漢文、數學ノ三科目又商學科ニ在リテハ更ニ英語ノ試験ヲ行フコトアル
ヘシ

第十條 専門部第二學年以上ニ編入スルニハ前項ノ資格ヲ有シ尙ホ前各學年ノ科目ニ付キ試験ヲ
受ケ合格スルコトヲ要ス但受験料ハ金五圓トス

第十一條 正科生ノ入學期ハ每學年ノ始一回トス別科生ハ隨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 本大學専門部ト同等學校ノ第二學年以上ニ在學シタル者ニシテ轉學ヲ願出ツルトキハ
相當ノ學年ニ編入ス但本大學ノ専門部學科課程中他校ニ於テ修了セサルモノアルトキハ其科目
ニ限リ試験ヲ行フ

第十三條 入學志願者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘテ本大學ニ差出スヘシ但試験ヲ要スル者ハ申
込ト同時ニ受験料金三圓ヲ納ムヘシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ但在學證用紙ハ
本大學ヨリ申受クヘシ

第十五條 保證人ハ東京市内ニ一家計ヲ立ツル成年者タルコトヲ要ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事件ニ付責ニ任スヘキモノトス

第十六條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滞ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出
スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十七條 學生疾病其他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二个月以上修學シ能ハサルトキハ其事實ヲ證
スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上學長ニ願出テ其許可ヲ經テ當該學年間休學スルコトヲ得

第十八條 休學シタル學生ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ入テ修學スルモノトス但休學年間ト雖モ事
故止ミタルトキハ其旨ヲ届出テ出席スルコトヲ得此場合ニ於テモ當該學年ノ試験ヲ受クルコト
ヲ得ス

第十九條 學生休學中ハ授業料ヲ免除ス

給費又ハ貸費ヲ受クル者ハ休學ノ月ヨリ之ヲ罷ム

第二十條 學生ニシテ陸軍現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其間第十七條ノ規定ニ準シテ休學シ
滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十一條 疾病其他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出テ學長ノ許可ヲ受ク
ヘシ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

一 學業劣等若クハ疾病ニ因リ成業ノ見込ナキ者

二 出席常ナラサル者

三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一个年間出席シ又ハ正當ノ事由ナク一个月以上出席
シタル者

第二十三條 第五章ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四ヶ月以上ヲ經過シ改善ノ實アリト認めタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

第三節 試験

第二十四條 試験ハ毎學年ノ終ニ舉行シ毎年九月追試験及ヒ再試験ヲ舉行ス但追試験及ヒ再試験ヲ受クル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第二十五條 試験ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十六條 試験ハ各科目ニ付合格不合格ヲ決ス

試験ノ成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ表シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第二十七條 第一學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第二學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス、第二學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第三學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス第一學年配當科目中試験未済又ハ不合格ノ科目アルトキハ此科目ヲモ通算スルモノトス但科目ト稱スルハ第七條ノ學科課程表ニ依ル

第二十八條 試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ルマテ在學スルコトヲ得但六ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス試験ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

第四節 學費

第二十九條 本大學専門部ニ入學スル者ハ入學料トシテ金二圓ヲ納ムヘシ

第三十條 授業料ハ一學年金七十七圓トス左ノ三期ニ納ムヘシ但當分月割金七圓ツツ分納スルヲ

妨ケス

第一期 四月(金三十圓) 第二期 九月(金三十圓) 第三期 一月(金十七圓)

第三十一條 學年ノ中途ニ入學シ若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及ヒ退學以後ノ授業料ヲ免除ス

第三十二條 學生在學中ハ闕席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十三條 授業料ヲ月割分納スル者ハ翌月分ヲ前月末日マテニ納付スヘシ

第三十四條 既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルモ之ヲ返付セス

第三十五條 授業料ヲ滞納スル者ハ完納ノ上ニ非サレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第五章 給費生及ヒ特待生

第三十六條 學生中學術優等、品行方正ナル者ヲ選ビ給費生又ハ特待生トス

第三十七條 給費生ハ當該學年間額金三百圓以内ノ學資ヲ給與シ特待生ハ當該學年間授業料ヲ

免除ス

第三十八條 給費生又ハ特待生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ其待遇ヲ解ク

第六節 貸費生及ヒ留學生

- 第三十九條 貸費ハ本大學貸費並寄附貸費ノ二種トス
- 第四十條 學生中學資支辨ノ途ナキ者ハ銓衡ニ依リ貸費生トシテ當該學年間年額金三百圓以内ヲ貸與スヘシ
- 第四十一條 寄附貸費ハ寄附者ノ指定ニ從ヒ前條ノ貸費年額以内ヲ貸與スルモノトス但特ニ貸費額ヲ限定セラレタルモノハ其額ヲ貸與ス
- 第四十二條 貸費ヲ受ケントスル者ハ其事情ヲ具シタル願書ヲ學長ニ宛テ差出スヘシ
- 第四十三條 貸費ノ許可ヲ得タル學生ハ本大學ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ
- 第四十四條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業後一今年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額ツツ月賦返納スヘシ
- 第四十五條 貸費生ニシテ成業ノ前途ナキ者ハ直ニ貸費ヲ罷ム
- 第四十六條 貸費生ニシテ貸費ノ停止又ハ退學ヲ命セラレ若クハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ又ハ退學スルトキハ貸費ヲ受ケタル金額ヲ即時ニ返納スヘシ但疾病ノ爲メ廢學シタル者ハ情狀ニ依リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第三章 研究科

- 第四十七條 本大學専門部卒業者ニシテ學術優等品行方正ニシテ將來學術ノ攻究ニ從事セント欲スル者ニハ特ニ學費ヲ貸與シテ海外ニ留學セシムルコトアルヘシ
- 留學生ニ關スル事項ハ派遣ノ都度之ヲ定ム
- 第四十八條 研究科ハ専門部ノ卒業者ニシテ既修ノ學科ニ付尙ホ深遠ナル研究ヲ爲サント欲スル者ノ爲メニ之ヲ設ク
- 第四十九條 研究科ノ修業科目ハ左ノ十一科トシ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム
- 憲法 行政法 刑法 民法 商法 訴訟法 國際法 政治學 經濟學 財政學 商業學
- 第五十條 修業年限ハ一年以上三年トス
- 第五十一條 入學期ハ毎年四月トス但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第五十二條 研究科ハ専門部、舊英吉利法律學校、舊東京法學院及ヒ舊東京法學院大學ノ卒業者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者ニ限リ入學ヲ許ス但同等學校卒業者若クハ之ト同等ノ學力アル者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者亦同シ
- 第五十三條 研究科ノ學生ヲ分テ正科生及ヒ別科生トス専門部正科ヲ卒業シタル者ヲ正科生トシ其他ヲ別科生トス

第五十四條 第十四條乃至第十九條ハ之ヲ研究科學生ニ準用ス

第五十五條 研究科ノ授業科ハ一个年金三十三圓トス但其納付ニ關シテハ第三十一條乃至第三十五條ヲ準用ス

第五十六條 研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外本大學ノ指定セル指導者ニ從ヒ專攻ノ學科ヲ研究スルモノトス但一般學生ノ爲メニ講義ハ任意聽聞スルコトヲ得

第五十七條 研究科ノ卒業試験ハ論文試問トス但場合ニ依リ更ニ口述試問ヲ爲スコトアルヘシ卒業論文ハ二人以上ノ指導者之ヲ批判ス

落第者ハ更ニ一年以上修業ノ後再ヒ試験ニ應スルコトヲ得

第五十八條 研究科ノ卒業試験ニ應セントスル者ハ受験料金十圓ヲ納ムヘシ

第五十九條 研究科ノ試験ニ及第シ法學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部法學士ト稱スルコトヲ得經濟學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部經濟學士ト稱スルコトヲ得商學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部商學士ト稱スルコトヲ得

第四章 學生心得

第六十條 出校スルトキハ必ス制帽ヲ戴キ制服、洋服若クハ袴ヲ著ケ靴又ハ上草履ヲ用ウヘシ

第六十一條 出校スルトキハ必ス聽講券ヲ携帯スヘシ若シ之ヲ携帯セサル者ハ入場ヲ許サス

第六十二條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其他粗暴ノ舉動アルヘカラス

第六十三條 授業中ハ退席ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ授業者ノ許可ヲ受クヘシ

第六十四條 學生又ハ保證人氏名ヲ改稱シ若クハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ

第六十五條 三日以上闕席スル者ハ必ス其事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條 闕席届出ノ日數ハ一个月ヲ超ユルヲ得ス若シ一个月ヲ經過シ其事由尙ホ止マサルトキハ其都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 懲 罰

第六十七條 學生學則又ハ校規ニ背反シ其他不都合ノ行爲アルトキハ情狀ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シ尙ホ器具等ヲ損壞シタル者ニハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

第六十八條 學業怠惰ニシテ成業ノ見込ナキ者又ハ品行不良改悛ノ目途ナキ者ハ退學ヲ命ス

第六十九條 前二條ノ規定ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シタルトキハ其旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知シ且ツ其退學處分ハ同種學校ニモ之ヲ通知スヘシ

昭和五年一月

中央大學

東京市神田區神保町一丁目六番

中央大學學則
第一章 總則
第一條 中央大學は、教育の振興に資することを目的として、設立せられたることを旨とし、その宗旨は、教育の振興に在り。
第二條 中央大學は、その宗旨を達成するために、その業務として、教育、研究、及びそのために必要な事務を営む。
第三條 中央大學は、その業務を遂行するために、その組織として、理事、教授、及びそのために必要な職員を置く。
第四條 中央大學は、その業務を遂行するために、その財源として、その設立に資するもの、及びそのために必要なものを管理し、運用する。
第五條 中央大學は、その業務を遂行するために、その施設として、その教育、研究、及びそのために必要なものを管理し、運用する。
第六條 中央大學は、その業務を遂行するために、その関係者として、その教育、研究、及びそのために必要なものを管理し、運用する。
第七條 中央大學は、その業務を遂行するために、その関係者として、その教育、研究、及びそのために必要なものを管理し、運用する。
第八條 中央大學は、その業務を遂行するために、その関係者として、その教育、研究、及びそのために必要なものを管理し、運用する。
第九條 中央大學は、その業務を遂行するために、その関係者として、その教育、研究、及びそのために必要なものを管理し、運用する。
第十條 中央大學は、その業務を遂行するために、その関係者として、その教育、研究、及びそのために必要なものを管理し、運用する。

昭和五年一月

中央大學

東京市神田區駿河臺南甲賀町六番地

19910792

中央大學記要

本大學ハ明治十八年七月質實剛健ヲ教育ノ本旨トシテ英吉利法律學校ノ名ヲ以テ東京市神田區錦町ニ創立セラレ同二十二年十月東京法學院ト改稱シ同三十六年八月大學組織ト爲シテ東京法學院大學ト改メ同三十八年八月中央大學ト改稱ス大正九年四月大學令ニ依ル大學ト爲リタリ

學科及部門

學部ハ法學經濟學及商學ノ三學部ニ分チ大學豫科卒業生及同資格者ヲ入學セシメ何レモ修學期間ヲ三學年トス
大學院ハ學部卒業生ニシテ尙深遠ナル研究ヲ遂ケンコトヲ欲スル者ノ爲メニ之ヲ置ク
大學豫科ハ學部ニ入ルノ階梯ニシテ第一豫科ハ中學校第四學年修了者及同資格者ヲ入學セシメ三年制ニシテ第一學年第二學年第三學年ノ三級ニ分ツ今回募集スルハ第一學年及第二學年トス第二豫科ハ中學校卒業生及同資格者ヲ入學セシメ二年制ニシテ第一學年第二學年ノ二級ニ分ツ今回募集スルハ第一學年トス豫科第一部ハ法學部經濟學部志望者第二部ハ商學部志望者ヲ入學セシム
大學豫科第一豫科及各學部ノ授業時間ハ午前八時ヨリ午後三時迄ヲ標準トシ第二豫科ハ午後五時半ヨリ同十時迄ヲ標準トス
專門部ハ法學科經濟學科及商學科ニ分チ各學科ニ正科別科ノ二科アリ共ニ修學期間ヲ三學年トス

學部及豫科ノ二部制

本學ハ昨年四月ヨリ文部大臣ノ認可ヲ得學則ノ改正ヲ行ヒ各學部ハ晝間夜間ノ二部教授トシ大學豫科ハ第一豫科及第二豫科ノ二種ニ分チ第一豫科ハ晝間授業トシ第二豫科ハ夜間授業トス尙ホ第一豫科ハ三年制第二豫科ハ二年制ナリ右ノ如キ改正ヲ加ヘタル所以ハ國家文運ノ進展ニ伴ヒ專門高等ノ教育ヲ受ケント欲スル者日ニ益々多キヲ加フルニ拘ハラズ今日ノ教育機關多クハ晝間授業ニシテ其施設亦畧々整ヘリト雖モ未タ以テ多數ノ志望者ヲ満足セシムルニ足ラス又境遇上晝間一定ノ業務ニ服シ夜間學業ヲ修メムトスル有爲ノ青年ニ對シ前記ノ教育ヲ施シ得ル設備ニ至リテハ其ノ數極メテ少ク多數ノ志アル者ヲシテ其進歩向上ノ途ヲ絶タシムルモノアルハ洵ニ遺憾ニ耐エサル所トス本大學ハ茲ニ見ル所アリ此缺陥ヲ補フカ爲メ學則ヲ改正シテ大學豫科ヲ二部制トシ夜間授業ヲ開始シ之ニ因ツテ主トシテ特殊ノ境遇ニ在リテ大學教育ヲ受ケント欲スル有志ノ青年ニ對シ其途ヲ開キ其志ヲ成サシメンコトヲ期シタリ
第二豫科ノ二部制ハ前學年ヨリ之ヲ實施シ學部ノ二部制ハ昭和六年度ヨリ之ヲ實施ス

資格及特典

一、學士及博士號 法學部經濟學部商學部ヲ卒業シタル者ハ其學部ニ從ヒ夫々法學士經濟學士商學士ト稱スルコトヲ得(大正七年十二月大學令第十條及學部學則第七條)
學部卒業生並之ト同等ノ學力アル者大學院ニ入學シ在學二年以上ニシテ論文ヲ提出シ合格シタル者ニハ學位令ニ依リ夫々法學博士經濟學博士商學博士ノ學位ヲ授與ス(大正九年七月學位令及學位規程)

二、卒業後ノ資格 大學豫科卒業生ハ英語ニ付法學部經濟學部卒業生ハ法制及經濟ニ付商學部卒業生ハ法制經濟商業及簿記ニ付中等教員無試驗檢定資格ヲ有ス(大正十二年四月文部省告示第二百六十二號)

法學部卒業生ニシテ經濟學財政學及行政法ヲ選擇シ經濟學部卒業生ニシテ商法ヲ選擇シ商學部卒業生ニシテ憲法行政法並刑法又ハ國際公法ヲ選擇履修シタル者ハ法制經濟ニ付高等學校高等科教員無試驗檢定資格ヲ有ス(大正十二年四月文部省告示第二百五十八號)

經濟學部商學部及商學科正科ヲ卒業シタル者ハ計理士タル資格ヲ有ス(昭和二年三月三十日法律第三十一號第三條第二項計理士法)
法學部經濟學部商學部ヲ卒業シタル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス(大正十年四月三十日法律第百號)

三、高等試驗受驗資格 大學豫科及各學部並專門部各學科ノ正科卒業生ハ高等試驗ノ豫備試驗ヲ免除セララル(大正七年二月文部省令第三號高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件大正十三年五月文部省告示第二百九十號)

四、學部入學資格 本大學豫科卒業生以外本學舊大學部卒業生並新學則ニ依ル本大學專門部各學科正科卒業生ハ學部ニ入學ノ資格ヲ有ス(學部學則第十一條)
五、徵集延期 大學豫科各學部及專門部各學科正科在學者ハ兵役法第四十一條ノ適用ヲ受ケ其在學中徵集ヲ延期セララル(兵役法昭和二年四月一日法律第四十七條)

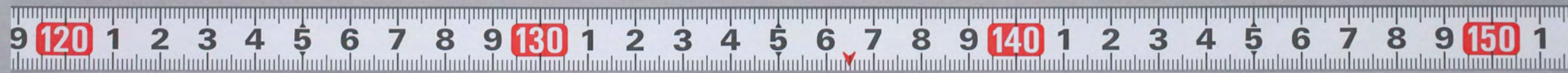
圖書館

本大學ニテハ創立以來圖書館ノ設備ニ非常ノ努力ヲ爲シ來リ大正十二年ノ大震火災ニモ類焼ヲ免レタル爲メ既ニ内外ノ良書十數萬部ヲ備ヘ今ヤ學界ニ於ケル權威タリ此藏書ハ學生ノ爲メ毎日午前八時ヨリ午後九時ニ至ルマテ閱覽ヲ許ス尙ホ同圖書館ニハ菊池、奥田、末松、岡野、穂積ノ各特別文庫ヲ附置シ且ツ米國「カーネギー」財團出版ノ圖書全部ノ寄託ヲ受ケ居レリ又近ク完備セル圖書館ノ建築ニ著手スル管ナレハ在校生ハ研究上至大ノ便益ヲ享クヘシ

學友會

學生相互ノ親睦ヲ圖リ本大學ノ學風ヲ發揚センコトヲ期シ學友會ヲ設ケ學藝部ニ法學會經濟學會商學會辭達學會政治學會英語學會學友會雜誌部ヲ體育部ニ柔道會劍道會庭球會競走會水泳會相撲會乘馬會蹴球會籠球會弓道會山岳會卓球會等ヲ置キ學術ノ研究及體育ノ獎勵ヲ目的トス

19910792



9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

入學願書

注意 (氏名ニハ必ス振假名ヲ附スヘシ)

貼
手札形寫真ノ裏面ニ氏名及生年月日ヲ記入シ指定ノ箇所ニ貼付スヘシ
付
箇所

原籍

現住所

戸主

氏名

弟男

明治

年

月

日生

私儀貴學^{第一}大學^{第二}豫^科科^第學^部部^第學^科科^第

學年ニ入學致度候間御銓衡ノ上御許可相成度書類

ヲ具シ此段及御願候

昭和 年 月 日

右 氏名

中央大學學長 法學博士 原 嘉道 殿

履 歷 書

(相當箇所ニ必ス學校名ヲ記入シ他ハ之ヲ抹消スヘシ)

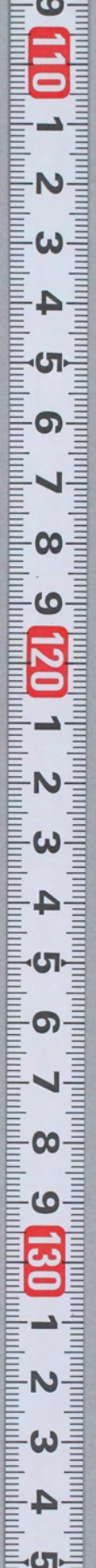
氏名

明治 年 月 日生

一、	一、	一、	一、	一、	一、
年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日

中學校(四年修了)卒業	師範學校卒業	實業學校卒業	專門學校入學者檢定合格	朝鮮高等普通學校卒業	學校卒業
-------------	--------	--------	-------------	------------	------

19910792





中央大学学則 1930(昭和5)年1月

第四九號

- 一本會會員タルコトヲ證明スル爲此ノ證票ヲ交付ス
- 一本會會員タルコトヲ證明スル必要アル場合ハ此ノ證票ヲ提示セラルベシ
- 一此ノ證票ハ他人ニ讓與又ハ貸與スルコトヲ得サルモノトス

19910792